

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 7 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26283001

研究課題名(和文) 中東・北アフリカ地域のイスラーム圏の少数派と弱者に関する総合的研究

研究課題名(英文) Integrated Study of Non-Dominant Groups in the Middle East and North Africa

研究代表者

高橋 英海 (TAKAHASHI, Hidemi)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：20349228

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、中東・北アフリカのイスラーム地域における少数派・弱者を取り上げ、その過去と現状について3年の期間をかけて調査を行った。具体的には、少数派・弱者を(1)「イスラーム圏における少数派としてのキリスト教およびその他の宗教」、(2)「イスラーム圏における伝統的弱者としての女性」、(3)「イスラーム世界における異端」という3つの研究課題に分け、それぞれの課題について調査を行い、思想史のおよび社会学的手法を用いて考察した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of the three-year research project was to conduct an integrated study of the past and present situation of religious minorities and other vulnerable groups in the Islamic World using both a religious-historical approach and legal-sociological approach. The target groups of the study were (1) the Christians and other non-Muslims as religious minorities in the Islamic World, (2) women as a traditionally weak and vulnerable group of people within the Islamic World and (3) sects deemed 'heretical' by the dominant groups within Islam.

研究分野：文献学

キーワード：西アジア・中央アジア 北アフリカ 少数派 弱者 イスラーム キリスト教 女性

1. 研究開始当初の背景

中東・北アフリカ地域には、数多くの弱者そして少数派に属する人びとが暮らしている。宗教という観点から見た場合、イスラーム教徒のほか、キリスト教徒、ユダヤ教徒、ゾロアスター教徒、ヤズィーディー教徒、マンダ教徒などの数多くの古来の宗教集団が少数派として暮らしている。またイスラーム教徒の中にも、シーア派やイバード派、そしてドゥルーズ派やアラウィー派などの少数派・極端派が存在する。さらに男性優位という伝統的な価値観が現在でも優勢な同地域では、女性の社会進出や地位の向上の取り組みは着実ではあるが未だに不十分である。また、古今東西を問わず戦乱や政治的・社会的混乱が続く社会において最も被害を受けてきたのは弱者としての女性と子供であることも忘れてはならない。こうした伝統的弱者である女性の過去そして現在の状況に目を向けることは、同地域の情勢を適切に把握するためには、避けて通ることのできない作業である。こうした中東・北アフリカ地域のイスラーム圏に暮らす少数派あるいは異端、そして弱者についての先行研究は、我が国においても蓄積がされつつある。しかしながら各研究は、分断された学問分野の中で進められており、そのために少数派や弱者を総合的にあるいは学際的に論じた研究は少ない。

2. 研究の目的

本研究では、中東・北アフリカ地域の宗教的少数派や社会的弱者の過去と現在に目を向けることによって当該地域の現状のよりの確な把握を目指すとともに、そのような少数派・弱者が置かれた状況の改善に資する基礎的な研究を提供することを目的とした。より具体的には、気鋭の研究者を中心とした研究チームを編成して、国内外の各学問分野の指導的研究者の協力を仰ぎつつ、中東北アフリカのイスラーム圏に暮らす少数派・弱者の実態を3年の期間をかけて総合的に解明することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、中東・北アフリカ地域の少数派・弱者について、「イスラーム圏における少数派としてのキリスト教およびその他の宗教」、「イスラーム圏における伝統的弱者としての女性」、「イスラーム世界における少数派・異端」という3つの研究課題を設定し、それぞれ思想史のおよび社会学的手法を用いて考察した。「イスラーム圏における少数派としてのキリスト教およびその他の宗教」とは、コプト教会、シリア正教会などのキリスト教、ユダヤ教、ゾロアスター教、ヤズィーディー教、マンダ教などの諸宗教を指す。また「イスラーム世界における少

数派・異端」とは、スンナ派と比較した場合の、イバード派、シーア派諸派、そしてアラウィー派やドゥルーズ派などのシーア派から離脱した極端派を指す。分析方法について、特に「イスラーム圏における伝統的弱者としての女性」については、法学およびジェンダー論の方法論なども用いて分析を行った。分析を通じて、中東北アフリカのイスラーム地域に暮らす少数派・弱者の過去・現在を明らかにし、それによって彼らの未来を展望することを目指した。

4. 研究成果

研究代表者および分担者は、上記の各研究課題について調査を進めると同時に、定期的に会合を持って互いの研究について意見交換を行った。課題「イスラーム圏における少数派としてのキリスト教およびその他の宗教」については、13世紀のキリスト教作家バルヘブラエウスの著作におけるイスラーム思想の受容と改変についての解明を進めると同時に、いまからちょうど一世紀前にオスマン帝国支配下で行われたキリスト教徒の大規模な虐殺とこの虐殺についての現在の扱いや、19世紀以降のエジプトのコプト教会信徒の間における自らのアイデンティティについての意識の変遷などについて調査を行った。課題「イスラーム圏における伝統的弱者としての女性」については、「国家におけるジェンダー関係の解明」、「家族法体系と実践に関する文献研究」、「外国人女性とインターセクショナリティ(交差性)に関する研究」の三つのテーマに沿って資料に基づく調査・研究を行った。この結果、湾岸産油国の女性の教育レベルの向上、就労率の上昇にもなっている女性による消費と起業行動が顕著になっていることが明らかになった。また、消費と企業を通じて既存のジェンダー関係に一定の変化が起きつつあることが明らかになった。課題「イスラーム世界における少数派・異端」では、オマーンおよび北アフリカにおけるイバード派の歴史と現状や、「極端派」の思想についての調査を進めた。特に後者については、9世紀のムファッダル・イブン・ウマルに帰される文書、10世紀のハスィービー文献の分析を通じ、非イスラーム派系イマーム派内の極端派的潮流にヌサイル派(アラウィー派)の思想的基礎があったこと、初期ドゥルーズ派の源流的思想とムクタナー期(11世紀前半)におけるその変質などを明らかにした。また、研究代表者および分担者の間の意見交換と研究成果の公表の場として、平成26年度と28年度には国内で、平成27年度にはレバノンで公開シンポジウムを開催した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 21 件)

菊地達也「『英知の書簡集』の宇宙創成論：「真理の開示」翻訳(1)」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第 48 巻、2017、227-237, 査読無.

辻上奈美江「文化・娯楽・スポーツと女性：変革を迫られるサウジの社会・文化規範」『中東協力センターニュース』第 41 巻 12 号、2017、13-21 頁, 査読無.

辻上奈美江「サウジ連合軍によるホーシー派攻撃とムハンマド副皇太子のプレゼンス」『アジア研ワールド・トレンド』248 号、2016、16-19 頁, 査読無.

辻上奈美江「英国政府の湾岸人観光招致と女性の消費」『中東協力センターニュース』第 41 巻 8 号、2016、22-33 頁, 査読無.

辻上奈美江「サウジアラビアの女性の消費お企業—商業インフラの発展と女性化に関する考察」『中東協力センターニュース』第 41 巻 4 号、2016、23-32 頁, 査読無.

桑原尚子「イスラームと立憲主義をめぐる問題の諸相：歴史的コンテクストから考える(1)(2・完)」『ICD NEWS』第 65 号(2015 年)、8-13 頁、第 66 号(2016)、5-12 頁, 査読無.

辻上奈美江「2015 サウジ地方選：女性参加のインパクトは？」『中東協力センターニュース』2016 年 3 月号、11-19 頁, 査読無.

辻上奈美江「サウジアラビアの「内在する他者」としてのシーア派」『外交』35 巻、2016、71-73 頁, 査読無.

Takashi Osawa, Guunii Lkhundev, Shigeo Saitou & Hidemi Takahashi, “As the Mountains Surround Jerusalem”: Two Syriac Inscriptions at Ulaan Tolgoi (Doloon Nuur) in Western Mongolia”, *Hugoye*, 18/1 (2015), 181-196, 査読無.

Hidemi Takahashi, “Syriac as the Intermediary in Scientific Graeco-Arabica: Some Historical and Philological Observations”, *IHIW* 3 (2015), 66-97, 査読有.

Naoko Kuwahara, “Negotiating Gender Rights and Relations in the Constitution-Making Process in Egypt”, *al-Raida* 143-144 (2015), 43-54, 査読有.

辻上奈美江「ムハンマド・ビン・サルマン副皇太子の外交デビューと王族内王族批判」『中東協力センターニュース』2015 年 10 月号、18-25 頁, 査読無.

辻上奈美江「イエメン攻撃に見るサルマン新体制」『中東協力センターニュース』2015 年 4 月号、17-23 頁, 査読無.

三代川寛子「20 世紀初頭におけるコプ

ト・キリスト教徒のファラオ主義とコプト語復興運動—イクラウディユース・ラビープの『アイン・シャムス』の分析を中心に」『オリエント』第 58 巻、2015、184-195 頁, 査読有.

桑原尚子「国際人権とイスラーム」『都市経営』(福山市立大学都市経営学部紀要) 第 7 号、2015、35-45 頁, 査読無.

Hidemi Takahashi, “Further Notes on the Syriac and Garshuni Manuscripts at Yale University”, *The Harp* 29 (2014), 97-126, 査読無.

Hidemi Takahashi, “Syriac as a Vehicle in the Transmission of Knowledge across Borders of Empires”, *Horizons* 5/1 (2014), 29-52, 査読有.

辻上奈美江「サルマン新国王の誕生とサウジアラビア情勢変動の予兆」『中東協力センターニュース』2015 年 2/3 月号、67-72 頁, 査読無.

辻上奈美江「恋愛結婚が許されないサウジアラビアの出会いと結婚」『アジア研ワールド・トレンド』2014 年 8 月号(No. 226)、30-31 頁, 査読無.

辻上奈美江「暴力・格差との長い闘い」、『季刊アラブ』151 号、2014、2-4 頁, 査読無.

- ② 辻上奈美江、「サウジ女性のキャリア志向、その背景は？」『季刊アラブ』148 号、2014、24-25 頁, 査読無.

〔学会発表〕(計 47 件)

Hiroko Miyokawa, “The Making of ‘Modern Sons of Pharaohs’ in Early Twentieth Century”, Workshop: Ethno-Religious ‘Minorities’ and Mobilisation in the Middle East, U. Oxford (英国オックスフォード市), 9th March 2017.

Tatsuya Kikuchi, “Surviving Strategies of the Druzes”, Studies on Religious and Socio-Political Minority Groups in Middle Eastern Societies, 2nd Meeting, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(東京都府中市) 2017 年 3 月 4 日.

Yohei Kondo, “The Early Development of Ibadi Law in Oman”, International Workshop: The Ibadiyya in the Context of Early Islamic Theology and Law, Orient-Institut (レバノン共和国ベイルート市), 27th Jan. 2017.

近藤洋平、「イバード派法学派の形成と展開に関する一考察：家族法を題材にして」, 日本オリエント学会第 58 回大会、慶應義塾大学(東京都港区) 2016 年 11 月 13 日.

Hidemi Takahashi, “From Lydda to Xiapu”, 10th Annual of Conf. of Asia-Pacific Early Christian Studies Society, State U. of Aerospace

Instrumentation (露国サンクトペテルブルク市), 9th–10th Sept. 2016.

Hidemi Takahashi, “The Cultural Role of Syriac Christians and Their Survival Strategies”, 1st Meeting of the Joint Research Project ‘Studies on Religious and Politico-Social Minority Groups in Middle Eastern Societies’, JACMES, Beirut (レバノン共和国ベイルート市), 1st–2nd Sept. 2016.

Yohei Kondo, “Minority Groups in Oman”, 同上.

Hidemi Takahashi, “The Syriac Marginal Notes in the Arabic Euclid Manuscript Chester Beatty Arabic 3035 and Some Related Matters”, XIIum Symposium Syriacum, Collegio Internazionale San Lorenzo da Brindisi (伊国ローマ市), 19th–21st Aug. 2016.

Hidemi Takahashi, “Notes on Prince George of the Önggüt”, 5th Salzburg Int’l Conf.: Syriac Christianity in China and Central Asia, Conference Hotel St. Virgil (奥国ザルツブルク市), 19th–22nd June 2016.

Hidemi Takahashi, “Why and When to Write in Garshuni”, Int’l Workshop on the Writing Systems of Garshuni, Judeo-Arabic and Samaritan Arabic, Institute of Advanced Study, Princeton (米国ニュージャージー州プリンストン市), 9th–10th June 2016.

Yohei Kondo, “Ibadi Policy on Education and Learning in the Premodern Period”, International Conference on Religion and Politics in Oman, U. Oxford (英国オックスフォード市), 25th May 2016.

Namie Tsujigami, “A Strategy of Surviving Patriarchy”, 日本中東学会(国際学会)慶應義塾大学(東京都港区), 2016年5月15日.

菊地達也, 「アラウィー派創始者ハスィービーの思想とその背景」「中東・北アフリカの少数派再考」、公開シンポジウム「中東・北アフリカ地域のイスラーム圏の少数派と弱者に関する総合的研究」、福山市立大学(広島県福山市), 2016年5月14日.

Hidemi Takahashi, “Survival and Revival among Syriac Christians: Two Items from Barhebraeus and from Fujian, China”, Int’l Workshop “Vulnerability and Resilience: Ecology of Non-Dominant Groups in the Middle East”. JACMES, Beirut (レバノン共和国ベイルート市), 10th March 2016.

Naoko Kuwahara, “Constitution and the Realm of Religious and Personal Law: Beyond ‘Blindness of Differences and ‘Absolute Religious Autonomy’?”, 同上.

Yohei Kondo, “From Dissociation to Coordination: A Case of Modern Ibāḍīs”, 同上.

Hiroko Miyokawa, “The Establishment of the Coptic Museum and its Nationalization,” 同上.

Namie Tsujigami, “Gender Relations after WWII and Comparison between Saudi Arabia”, Lund U. (スウェーデン王国ルンド市), 23rd Feb. 2016.

三代川寛子, 「コプト博物館に見るコプト・キリスト教徒の宗教文化とナショナル・アイデンティティ」、第8回コプト・イスラーム物質文化研究会、国土館大学(東京都世田谷区)、2016年2月20日.
高橋英海, 「中東地域のキリスト教徒にとっての移住: 聖書、歴史、文学、そして現状から」、東京大学中東地域研究センター公開シンポジウム: 移動・移民と中東、東京大学(東京都目黒区), 2016年1月31日.

⑳ 菊地達也, 「11世紀ドゥルーズ派の集団移動: エジプトからシリアへ」、同上.

㉑ 近藤洋平, 「初期イスラーム時代における人の移動と教義の伝播: イバード派の場合」、同上.

㉒ 菊地達也, 「イスラーム教シーア派の起源」、宗教間対話研究所第97回月例研究会、東京グランドホテル(東京都港区), 2015年11月27日.

㉓ Namie Tsujigami, “Intimate Matrilineal Network as Strategy within Patriarchy”, MESA 2015, Denver (米国コロラド州デンバー市), 23rd Nov. 2015.

㉔ Hiroko Miyokawa, “Modern Sons of Pharaohs?”, American Acad. of Religion Annual Meeting (米国ジョージア州アトランタ市), 21st Nov. 2015.

㉕ Hiroko Miyokawa, “Revival of the Coptic Language and Pharaonism”, 5th Int’l Conf. of NIHU Program for Islamic Area Studies (IAS), Sophia U. (東京都千代田区), 12th Sept. 2015.

㉖ Namie Tsujigami, “Establishment of A Women’s University and Changing Aspirations of Women in Saudi Arabia”, Gulf Research Meeting 2015, U. Cambridge (英国ケンブリッジ市), 25th Aug. 2015.

㉗ Naoko Kuwahara, “Constitutionalizing Women’s Issues in MENA”, Int’l Conf. “Women Leaders as Agents of Change”, Crown Plaza Hotel, Beirut (レバノン共和国ベイルート市), 27th July 2015.

㉘ 菊地達也, 「『媒介者』としてのシーア派イマーム」、第61回宗教史研究会、東洋英和女学院大学(東京都港区), 2015年6月13日.

㉙ Hidemi Takahashi, “Representation of the Syriac Language in Jing Jiao

- Documents”, Int’l Conf. on Jing Jiao, U. Hong Kong (香港特別区), 10th–12th June 2015.
- ③① 桑原尚子、「イスラーム家族法とジェンダー：離婚訴訟における夫の扶養義務と妻の服従義務を事例として」、日本法社会学会 2015 年度学術大会、首都大学東京（東京都八王子市）、2015 年 5 月 10 日。
- ③② Namie Tsujigami & Waffa al-Tuwaijiri, “Challenges Facing the Academic Leaders in Saudi Arabia and Japanese Universities”, *The Gulf Comparative Education Society*, Middlesex U. (アラブ首長国連邦ドバイ市), 16th April 2015.
- ③③ 辻上奈美江、「ヴェールとキャリア～サウジアラビアの事例から」、シンポジウム『イスラーム・女性・ジェンダー』、明治大学（東京都千代田区）、2015 年 3 月 28 日。
- ③④ Hidemi Takahashi, “The Role of Syriac in the Transmission of Knowledge in Eurasia”, Faculty of Arts, Cairo U. (エジプト共和国カイロ市), 22nd March 2015.
- ③⑤ Namie Tsujigami, “Saudi Women’s Negotiation of Power and Space through Driving Campaigns”, MESA 2014 (米国ワシントン市), 24th Nov. 2014.
- ③⑥ Hiroko Miyokawa, “The Establishment of the Coptic Museum and its Nationalization in twentieth-century Egypt”, American Acad. of Religion Annual Meeting, San Diego (米国加州サンディエゴ市), 23rd Nov. 2014.
- ③⑦ 辻上奈美江、「『アラブの春』による身体の管理と表象、そして女性のエージェンシー」、国際政治学会 2014 年度研究大会、福岡国際会議場（福岡県福岡市）、2014 年 11 月 15 日。
- ③⑧ 三代川寛子、「古代エジプトへの情熱、古代エジプトにみる夢」、日本オリエント学会公開シンポジウム「オリエント研究」、上智大学（東京都千代田区）、2014 年 10 月 25 日。
- ③⑨ Namie Tsujigami, “Social Dynamism of Changing Women’s Roles in the Gulf” *Third Symp. of Sultan Qaboos Academic Chairs*, U. Tokyo (東京都文京区), 2nd-3rd Oct. 2014.
- ④① Hidemi Takahashi, “Treatment of Water in Syriac Religious and Scientific Literature”, 同上。
- ④② Naoko Kuwahara, “Shariah in Law and Politics: A Comparative Study on Gender in Islamic Law”, First CALE-SOAS Asian Comparative Legal Studies Workshop, SOAS (英国ロンドン市), 15th Sept. 2014.
- ④③ Naoko Kuwahara, “Shariah in Law and Politics: A Comparative Study on Gender in Islamic Law”, Annual Meeting of the Association of Southeast

- Asian Studies in UK, Brighton U. (英国ブライトン市), 14th Sept. 2014.
- ④④ Hidemi Takahashi, “On Some Late Collections of Syriac Anti-Armenian Tracts”, Int’l Conf. “Christian East: Cultural Interactions with Other Traditions”, The State Hermitage, SPB (露国サンクトペテルブルク市), 4th-6th Sept. 2014.
- ④⑤ 高橋英海、「サイフォー（剣の年）：1914 年～1918 年のシリア人（スルヨーイエー）・アッシリア人虐殺とその記憶、そして 2014 年」、第 14 回東方キリスト教学会、南山大学（愛知県名古屋市）、2014 年 8 月 25 日-26 日。
- ④⑥ Hiroko Miyokawa, “The Establishment of the Coptic Museum”, WOCMES Ankara 2014 (トルコ共和国アンカラ市), 22nd Aug. 2014.
- ④⑦ Naoko Kuwahara, “Negotiating Gender Rights and Relations in the Constitution-Making Process in Egypt”, Int’l Conf. Arab Countries in Transition, LAU (レバノン共和国ベイルート市), 23rd -25th June 2014.
- ④⑧ Hidemi Takahashi, “Syriac as the Intermediary in Graeco-Arabica”, Int’l Conf. in Commemoration of Centennial of Birth of Franz Rosenthal, Yale U. (米国コネチカット州ニューヘイブン市), 25th-27th April 2014.

〔図書〕(計 27 件)

高橋英海「大谷探検隊将来資料中のシリア語断片」入澤崇・橘堂晃一編『大谷探検隊収集西域胡語文献論叢』龍谷大学仏教研究所、2017、181–211 頁。

菊地達也「イスラーム教における死生観と死後の世界」大城道則編著『死者はどこへいくのか：死をめぐる人類五〇〇〇年の歴史』河出書房新社、2017、104-131 頁。

菊地達也「『媒介者』をめぐるスンナ派（多数派）とシーア派の相克」杉木恒彦他編『霊と交流する人びと：媒介者の宗教史上巻』リトン社、2017、105-128 頁。

D. Eickman, R. Abusharaf, K. Sakurai, Namie Tsujigami et al., *Higher Education Investment in the Arab States of the Gulf*, Gerlach 2017, 146 pp.

山内昌行、宮家邦彦、保坂修司、辻上奈美江他『中東と IS の地政学』朝日新聞出版社、2017、440 頁。

Yohei Kondo, “The Deposition of al-Imam al-Salt b. Malik and the Ibadi Imamate Tradition of Oman”, R. Eisner et al. (eds.), *Today’s Perspectives on Ibadi History*, Hidesheim 2017, p. 197-210.

近藤洋平「GCC 諸国の高等教育の現状」

山内昌之編『中東とISの地政学』朝日新聞出版社、2017、331-350頁。
三代川寛子「マイノリティ問題と研究」私市正年他編『中東・イスラーム研究概説』明石書店、2017、218-225頁。
Matteo Nicolini Zani, in coll. w. Hidemi Takahashi, “The Dunhuang *Jingjiao* Documents in Japan”, L. Tang & D.W. Winkler (eds.), *Winds of Jingjiao*, Wien 2016, p. 15-26.
桑原尚子「イスラーム法」阿部博友編『世界の法律情報—グローバル・リーガル・リサーチ』文眞堂、2016、293-304頁。
桑原尚子、「マレーシア法」、阿部博友編『世界の法律情報—グローバル・リーガル・リサーチ』文眞堂、2016、116-127頁。
Hiroko Miyokawa, “The Struggle over Egyptianness: A Case Study of the Egyptian Nayruz Festival”, L. Robson (ed.), *Minorities and the Modern Arab World*, Syracuse 2016, p. 122-139.
Hiroko Miyokawa, “The Revival of the Coptic Language and the Formation of Coptic Ethno-Religious Identity in Modern Egypt”, N. van Doorn-Harder (ed.), *Copts in Contexts*, Columbia SC 2016.
Takashi Osawa & Hidemi Takahashi, “Le prince Georges des Önggüt dans les montagnes de l’Altai de Mongolie”, P. G. Borbone, P. Marsone (éds), *Le christianisme syriaque en Asie centrale et en Chine*, Paris 2015, p. 257-290.
Hidemi Takahashi, “The Influence of al-Ghazālī on the Juridical, Theological and Philosophical Works of Barhebraeus”, G. Tamer (ed.), *Islam and Rationality: The Impact of al-Ghazālī*, vol. 1, Leiden 2015, p. 303-325.
菊地達也、「現代ドゥルーズ派の自己表象」, 塩尻和子編『変革期のイスラーム社会の宗教と紛争』, 明石書店、2015年、132-157頁。
Namie Tsujigami & Koji Horinuki, “Japan in the Gulf: Between intra-bureaucratic politics and inter-Asian rivalry”, A. Ehteshami & Y. Miyagi (eds.), *The Emerging Middle East-East Asia Nexus*, Routledge 2015, p. 85-93.
辻上奈美江、「テロリズムとジェンダー「イスラーム国」の出現と女性の役割」, 塩尻和子編『変革期のイスラーム社会の宗教と紛争』, 明石書店、2015、117-130頁。
Hidemi Takahashi, “Syriac Version of Nicolaus-Olympiodorus on the Genesis of Winds”, in E. Coda & C. Martini Bonadeo (éds), *De l’Antiquité tardive au Moyen Age*, Paris, 2014, p. 169-197.

Hidemi Takahashi, “L’astronomie syriaque à l’époque islamique”, É. Villey (éd.), *Les sciences en syriaque*, Paris 2014, p. 319-337.

- ⑲ Hidemi Takahashi, “Syriac and Arabic Transmission of *On the Cosmos*”, J. C. Thom (ed.), *Cosmic Order and Divine Power*, Tübingen 2014, 153-167.
- ⑳ Hidemi Takahashi, “Transcription of Syriac in Chinese and Chinese in Syriac Script in the Tang Period”, J. den Heijer et al. (eds.), *Scripts beyond Borders*, Louvain 2014, p. 329-349.
- ㉑ Hidemi Takahashi, “Armenisch-Garschuni”, *Scripts beyond Borders*, Louvain 2014, p. 187-214.
- ㉒ 高橋英海「ユーラシアの知の伝達におけるシリア語の役割」堀川徹編著『知の継承と展開—イスラームの東と西』, 明治書院、2014、15-44頁。
- ㉓ 菊地達也「極端派（グラート）の伝統とアラウィー派」近藤洋平編『中東の思想と社会を読み解く』東京大学中東地域研究センター、2014、109-130頁。
- ㉔ 辻上奈美江『イスラーム世界のジェンダー秩序』明石書店、2014年。
- ㉕ 辻上奈美江「サウディアラビアにおける家事労働者の流入と「伝統」の再生」細田尚美編『湾岸アラブ諸国の移民労働者』明石書店、2014、101-115頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 英海 (TAKAHASHI, Hidemi)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：20349228

(2) 研究分担者

桑原 尚子 (KUWAHARA, Naoko)
福山市立大学・都市教養学部・准教授
研究者番号：10611361

菊地 達也 (KIKUCHI, Tatsuya)
東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授
研究者番号：40383385

辻上 奈美江 (TSUJIGAMI, Namie)
東京大学・大学院人文社会系研究科・特任准教授
研究者番号：30584031

近藤 洋平 (KONDO, Yohei)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員
研究者番号：20634140

三代川 寛子 (MIYOKAWA, Hiroko)
上智大学・アジア文化研究所・客員所員
研究者番号：3262190124